

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

菊池市立泗水中学校 教諭 佐藤 一生

1 単元名 「菊池飛行場」(人権学習～平和学習～しおり作り～学習発表会～修学旅行)

2 単元の目標

- ① 地域の戦争遺跡「菊池飛行場」にまつわる歴史、太平洋戦争における「特攻」の実態を理解し、自分たちが実現したい世界を「平和宣言」の形にすることができる。 (知識・技能)
- ② 修学旅行先である鹿児島「知覧の特攻基地」と、「菊池飛行場」の関係者の証言などから、特攻隊の賛美ではなく、戦争を防ぎ、人権を尊ぶにはどうすればよいか考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ③ 学習発表会で鹿児島の調べ学習や平和構成詩などの表現活動に取り組んだり、知覧の現地で平和集会を実行したりすることで、生徒の協調性・リーダー性を育成する。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「人権学習～菊池飛行場」「学習発表会～構成詩作り」「修学旅行～知覧平和集会」の組み合わせによるユニット学習である。

地元の郷土史家や戦争体験者を招いて、菊池飛行場の担った役割と戦争の悲惨さを聞き取り、平和への思いを高めることができる。また、学習発表会に向けて平和への思いを構成詩にし、自分たちが人権を尊び、平和な社会の構成者として表現力の育成をはかる。さらには、修学旅行で鹿児島知覧を訪れ、特攻隊員の遺書などに触れ、学習した登場人物が生身の人間であったことを確認することで、菊池と知覧、昭和と現代という地理的・時空的な垣根を越え、平和を求める人間として大切な感性を磨けるものと信じる。

また、2年後期ということで次代のリーダー育成も兼ねたいと考える。修学旅行のしおり制作や表現活動のリーダーを生徒に担わせ、集団を率いる自信をつけさせることで、生徒会役員選挙の立候補委員長選出などへつなげることができる。

(2) 生徒観

本学年の生徒は4クラス135人である。今まで中学1年生で「水俣病・ハンセン病学習」「狭山事件」を取り上げ、身の回りの差別事象に対して、それを見抜き許さない態度の育成を図ってきた。また中学二年生前期で「私の水平社宣言」を作成し、差別を自分事として捉える考え方を学んできている。

とはいえ、生徒は以前までコロナ禍の中、集団を作って学習するには制限があった。今年度は修学旅行を前に、「今しかできない」経験を積みあげたいという活動意欲を持っている。

「戦争・平和」という大きなテーマであっても、「人」が行う行為として、自分たちに何ができるのかという問いを立て、ゲストティーチャーからの話や、実際に現地に赴いて五感を働かせることによって、自分に身近なところから実践をはかろうとすることが可能になったこの機に、本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、ゲストティーチャーによる地元の戦争遺構「菊池飛行場」を紹介していただき、今年度の修学旅行先である鹿児島知覧と、地元菊池のゆかりに気付かせる。その話

を元に、特攻についての学習に意欲を持たせたい。

次に、地元の人々の体験談を元にした人権学習「童顔の特攻兵、忘れられぬ声」を学習する。特攻兵の「生きていたい」という本音の部分と、愛する家族を守るために死地に赴く壮絶な心情を捉えさせ、自分ならば・・・と考えさせることによって、戦争を憎み、生命を慈しむ心情の醸成をはかりたい。

そして、学習発表会に向けて、自分たちの平和への思いを「構成詩」にして発表し、発信を図ることで、自分たちにできる「平和な世の中」づくりの端緒にして、行動化を図っていく。修学旅行に向けての調べ学習や、鹿児島知覧での平和集会のための準備を、生徒の実行委員会を立ち上げて準備する中でリーダー性や協調性を育てるようにする。

さらには、修学旅行直前に、中学三年生が作った戦争紙芝居を聞き、その話の元となった戦争体験者の講話に耳を傾けたり、修学旅行先の知覧特攻平和祈念館で、教材に出てきた人物に触れることで、今までの学習が鮮明に記憶として残り、その後、家族や地域に話題を提供し、平和の灯火を広げる一助とさせたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性・・・菊池と知覧、戦争遂行のために犠牲となった人々の生活の場、場合によっては人生最後の地となったことに思いを馳せる。

有限性・・・「戦争」を前に、「命」「人権」が軽く扱われてしまう恐ろしさやおかしさを実感し、今の自分や他社の命を尊ぼうとする態度を育成する。

責任性・・・私たちが、戦争経験者から「メッセージ」をくみ取れる最後の世代であり、彼らに代わって世界平和を構築する人材になる責任がある。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

「戦争」が人間性を破壊し、非合理的な戦法を編み出したり、戦争相手国はもとより、同じ国民でも末端の兵士や家族の立場がないがしろにされていることに気づく。

コミュニケーションを行う力

平和宣言をつくるため、個人の思いを文章化し、クラス単位で意見交換を行い、練り上げていく。

他者と協力する態度

調べ学習を班単位で行い、修学旅行のしおり作成、学習発表会の発表を企画する中で仲間と見通しをもって作業する。

つながりを尊重する態度

戦争の時代を乗り越えた体験者の話から、自分の命の有限性・連続性に思いを馳せて、自他の命を大切にしている心情を育てる。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正を意識できる。

先人の苦勞の土台に今の平和、繁栄があることを理解し、高齢者や未来の子供たちのために責任ある言動を取りたいと意識する。

人権・文化を尊重する。

戦争が最大の人権侵害であることを理解し、反戦の思いを新たにす。鹿児島の自然・文化を調べる中で、郷土熊本の良さにも気づく視点を持てる。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する。

「戦争」がない＝平和、なのかを問い、本当の「平和」を構築するために何ができるかを追い求め続けることができる。

・達成が期待できる SDG s

10 人や国の不平等をなくそう


16 平和と公正をすべての人に


17 パートナースhipで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 「菊池飛行場」「鹿児島知覧」「太平洋戦争(特攻)」「鹿児島宮崎の風土」について、その歴史や環境等を知識として理解している。	① 戦争をしない世の中を作り、人権を守るため、社会の構成者として自分自身はどのように行動すれば良いか考えることができる。	① 修学旅行に赴く前に、自ら問いを立て、平和の世の中の構成者としての責任を果たそうとする意欲を持っている。
② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、修学旅行のしおりやプレゼンなどで、言葉や図、絵などに関係づけて用いまとめる技能を身につけている。	② 特攻兵の心情などについて学んだことや考えたことを平和構成詩にして表現できている。	② 戦争遺構や体験談から、郷土に深い愛着を感じ、それを守り育もうとする心情を育てている。
		③ 調べ学習を通して、学年だけでなく、次代のリーダーとして様々な発信をしようとしている。

5 単元の指導計画(全15時間) 修学旅行の班編制や集団行動などは除く。

学習活動	学習への支援	○評価・備考
<p>★第1次 特攻隊の概要の講話を聞く。</p> <p>※修学旅行の行程・平和学習の意義について(佐藤)</p> <p>※「菊池」「知覧」のアウトラインを教える。</p> 	<p>元菊池南中教諭 勝又俊一先生 ・体育館※暑さ対策</p>	<p>(ア) ① (知・技) (ウ) ② (主体的)</p>
<p>★第2次 菊池飛行場での話(人権学習:独自教材) 「～童顔の特攻兵、忘れられぬ声～」を学習する。</p>	<p>特攻兵の心情に迫るようにする。(クラス担任授業)</p>	<p>(イ) ② (思判表)</p>
<p>★第3次 「NHK証言記録特攻の目的は戦果にあらず～第201海軍航空隊～」視聴※大西中将の本音(天皇に・・・) ※嘘の戦果</p>	<p>特攻兵の本心に迫る。 約45分YouTube</p>	<p>(ア) ① (知・技)</p>
<p>★第4次 「NHK 許されざる帰還」視聴『生還特攻隊員を強制隔離した振武寮の実態』※軍部の非道＝必ず死ぬ強制</p>	<p>生き残りの特攻兵の証言 約45分YouTube</p>	<p>(ア) ① (知・技)</p>

<p>★第5次「TBS 国家と個 特攻隊員たちの葛藤」※英霊ではない。黒木国雄少尉と父の話『特攻基地知覧（高木俊朗著）』から（佐藤制作）を学習する。</p> <p>・Q「特攻兵に本当に謝らなければならないのは誰？また、謝るとは何をすること？」</p> <p>特攻兵自身・アメリカ・天皇・日本政府 日本軍部・日本国民・日本の報道陣・その他</p>	<p>後半は大きな問い（記述の時間）</p> <p>約23分YouTube</p>	<p>(イ) ① (思判表)</p> 
<p>★第6次「特攻兵に本当に謝らなければならないのは誰？また、謝るとは何をすること？」を議論する。</p> <p>※謝るとは？</p> <p>●未来志向へ3年社会科で再び考えることになる。</p>	<p>クラス担任授業により、戦犯探し×→謝れば終わりか？→未来志向でできることを探す。</p>	<p>(イ) ① (思判表)</p>
<p>★第7次 調べ学習コース分け：コース紹介を聞き、第三希望まで取り終わる。</p> <p>☆週末土日に佐藤でコース分け</p>	<p>実行委員は佐藤が平和集会の段取り。135人÷19＝1班7人</p>	<p>(ア) ② (知・技)</p>
<p>★第8次「平和宣言作り」</p> <p>(1) 一人一人に平和宣言に盛り込みたい文言を書く。</p> <p>(2) 合唱コンクールの取り組みなどを通して出てきた、<u>学級の課題を克服するために、宣言の中に「どんな泗水中2の●集団を作るか」</u>を盛り込む宣言にする。</p> <p>→立志式や進路公開につなげる。修学旅行後は玄関前ショーケース下に掲示。</p>	<p>(1)(2)をもとに実行委員で文言の確定</p> <p>※文言確定後は帰りの会後に読み上げを行なう。宣言は「知覧平和会館」で読み上げる。習字がうまい生徒を募り布に大書する。</p>	<p>(ウ) ①③ (主体的)</p>
<p>★第9～14次「調べ学習」</p> <p>各コース連絡系のリーダーを決めて作業。各班ごとに調べたことを①プレゼン②しおり担当に分け制作する。</p>	<p>※材料集めに(2時間)+制作(3時間) 発表練習(1時間)</p>	<p>(ア) ② (知・技)</p>
<p>11/6(日) 学習発表会：修学旅行地の調べ学習発表と知覧平和集会で読み上げる平和宣言構成詩 修学旅行に向けての班編成・集団行動・しおり作成の時間など(学年主任で別途計画)</p>		
<p>★第15次「先輩の戦争紙芝居(できれば本校3年生に読んでいただく)」→「元少年飛行兵前田祐助さんの講話」を聴く。修学旅行直前に。(コロナ禍+酷暑を考慮し、修学旅行直前に企画●知覧平和集会につなげる)</p>  	<p>元少年飛行兵前田祐助さんによる講話。</p> 	<p>(ウ) ② (主体的)</p>
<p>12/8,9,10(木・金・土) 修学旅行(知覧平和集会) 12/8は太平洋戦争開戦日(1941年今から81年前)</p>		
